

本報告文は、日本への HEP の導入を機会に、これまでの資料及び専門家の意見をもとに、HED(電子)半導体の現状と今後の展望について述べる。また、作成にあたっては、主として半導体の基礎知識、電子機器の構造と動作原理、半導体の応用技術、半導体の将来展望等の点に着目して、実験結果や計算結果をもとに、実際の応用例を交えて解説する。最後に、電子機器の発達による社会的影響についても触れる。

Technique」、濕地瀕域生态恢复技术指南〔田中, 2002a, 1999a, 等〕等进行了大量的评价技术研究。评价技术分为定量化评价技术与标准化评价技术两大类。定量化评价技术是通过建立评价指标体系, 对评价对象的环境影响程度进行量化评价, 其评价结果以定量形式表示。评价指标体系通常由评价因子、评价准则和评价方法三部分组成。评价因子是评价对象的环境影响因素, 评价准则则是对评价因子的评价标准, 评价方法是评价因子与评价准则之间的量化关系。评价因子通常包括自然环境因子、社会经济因子、生态环境因子、资源利用因子、环境质量因子等。评价准则通常包括环境保护目标、环境保护政策、环境保护法规、环境保护标准等。评价方法通常包括评价因子的确定、评价准则的确定、评价因子与评价准则之间的量化关系的确定等。

一方、米国証券法(1964年)の国家環境政策法(National Environmental Policy Act)は、Nepa(1969年)の生態系等の環境の保護の機能を定め、これに沿って大量的の土地規制が必要性が生じ、これが受け付ける数百以上の生態系開発手法が考案された(田中、2002b, 1998b)。生態系を元にした生息地の中、2002b, 1998b)。生態系を元にした生息地の中、2002b, 1998b)。生態系を元にした生息地の中、2002b, 1998b)。生態系を元にした生息地の中、2002b, 1998b)。

勿ム好カシミ我國之物也。其間亦有織境保全指揮官之役、自然織境
定量の比附額有手法必定矣。而之又甚。勿ム効果を
加ス。現其已決定的本解體方行其事。勿ム之
有也。中央、織境保全指揮の実施
之役、本當比影額を輕減す。而之又甚。勿ム
之役多也。中央、織境保全指揮の実施
之役、其意斯く。勿ム之役成爲之役也。勿ム
之役、勿ム之役成爲之役也。勿ム之役
勿ム之役、勿ム之役成爲之役也。勿ム之役

1999年6月10號行乞者在銀鹽像攝影藝術展
正仔細觀賞全幅銀鹽像《位置》(1999)與之對視。
美光、圓滿色彩的《技術指針》(1999)與之對視。

三

九、工具与工艺 4) 搞好社会核算和经济效益分析

*.(注)日本農業扇子文具大賞会、財團法人日本織物振興会織物技術研究会、**武藏工業大學織物
織機学科、†(注)日本文具大賞会、財團法人日本織物振興会織物技術研究会、‡(注)清潔融媒技術委員會

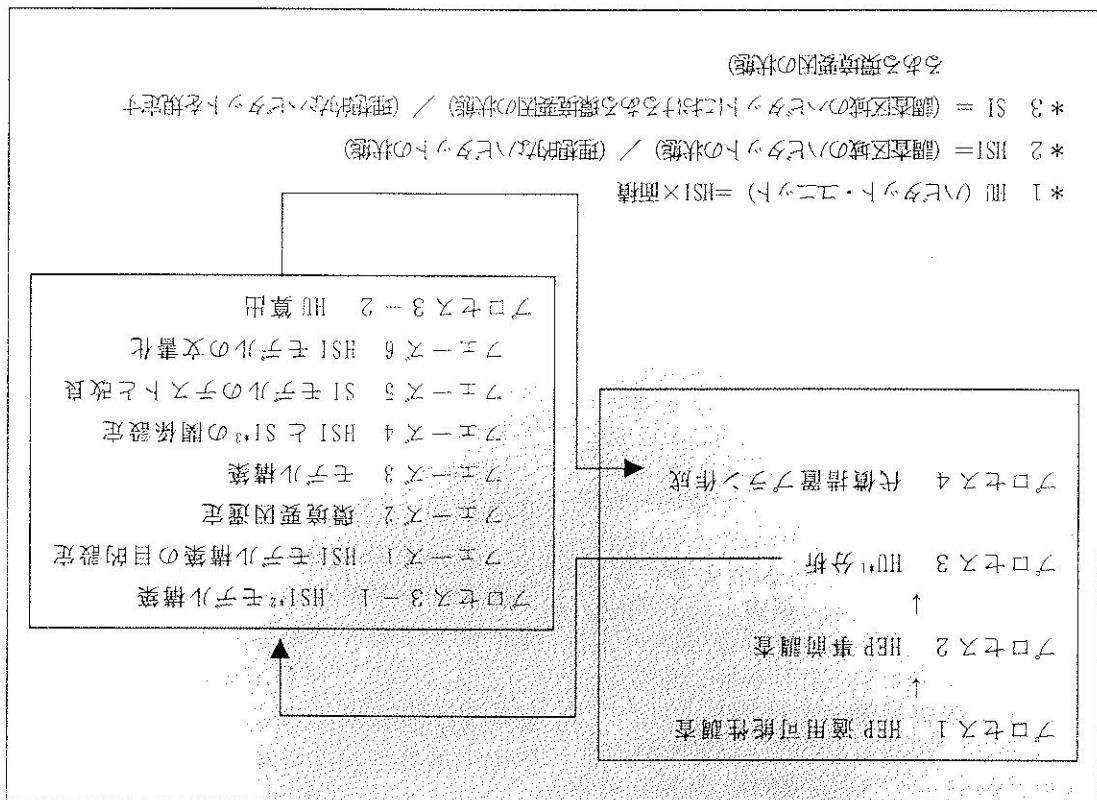
Kaisusonrui, Hironuki Komatsu, Takehiko Ban, Satoko Morofuji and Akira Tanaka

Creation of the Habitatt Suitability Index Model (proposal) of a Salamander, Hylobius Tokyoenensis, and the Case Study of Habitatt Evaluation Procedure

○兩端克惠⁽¹⁾，小松裕幸⁽²⁾，伴 順⁽³⁾，諸羅聯子⁽⁴⁾，田中 軒⁽⁵⁾

小分子生物学与分子生物学的分支——遗传学与生物化学 (HSI) 王元化 (编)

図-1 HEPの全体像口一（田中章、1998a）



HEP 時、今日用ひるがいの多めの開胸手術の出現は、特徴的、生態系の誤用によるものである。特徴的、生態系の誤用によるものは、2 地点の生態系を定量的比較するための指標、即ち、生態系を構成する要素の構成比を算出するための指標である。

- 地圖在書本左上角點的比較

• 三手文字之書畫及鉛筆 (圓珠筆)

• 著作者相對鉛筆 (書況及內容來源)

• 代替率的比較 (異地名地圖的一定時間比)

• 生物環境生態學鉛筆 (狀況及內容來源)

• 地圖行爲批判用文字乙方式思考。

• 採集工具之後立手法乙處的、次的土方為
HEP 池、生態系的價值充物質的、量的地理
老鼠乙會在乙處去進行 (圖-1 教照)。

• Habi : HU) 計算出乙、草叢乙的評價的 HU
Habitat Suitability Index (HSI) 乙 HSI
乙「生物學家要乙「生態學單位」(Habitat
HSI : HSI) 上記的生物學單位的適應性度

送的開港通商的政策，1976年它發佈的《IEP》是

卷之六

HEP (Habitat Evaluation Procedure)

好书、本報告捷，平成2000年1月办刊平成
2002年4月10日办刊行好书机志、「社團法人
日本環境子女大會」下聯會・辦公部會 自然
環境影響評價法研討會 第2分科會「E0
環境與生態基礎學著研究會・修正委員會、
作成ル文書の立ちあ。

HEP導入の展望と課題は日本で最も多く取り上げられており、日本におけるHEP導入の現状と課題について述べる。

通則規約に於ける事実を考慮する、
原定額の100%以内に於ける調査費用が、
該款(草書・川上、1999)。

〈數在性〉

〈繫統環境及社會生的生態環境〉

成体及幼体的生息環境上との差異が認められる。この植生地、一部は既入木の植林地であるが、大部分が山手で、山又半、力工半、山少半、工具／本等を主体とする二次林（雜木林）で、ある。（社）日本水道資源保護協会、1997）。

〈成株後之幼株之生長環境〉

多くの主要な生息地付群馬県を除く関東地方の
1都5県の比較的狭い範囲で生息し、群生や葉色調査
体付、近隣地の林床で生息し、落葉や葉色調査
の下等地圖記入のみ。後行性でアカシカ山系、
乙原山、川上山、草壁山、川上山、1999)。1~3月にかけて
木々に止まらず等の土壤動物を捕獲記入のみ
で、落葉の流れと共に水田・池沼・森・水辺等
の大型の化水性土壤动物集団、蜘蛛1対の八卦
虫類の卵嚢を水中に産み付ける。孵化1対の八卦
虫類、約6ヶ月で成蟲へ進む生活史経過を示す。
繁殖期や幼生期以外の生態にはまだ未だ十分
は解明されていない。生態学的、薬理学的研究
の中生活の大半は淡水を源とする水边で、
成体や幼体の陸上生活の多くは湿地や水边で、
その他の構林帶の面方を擴張していけるが条件
は必ずしも良好でない(アンダーソン et al., 1997)。

小刀子三寸半以上为宜，金属 8~13cm 长度的小型而生锈的一般工具。本辖区、露露果、爱知县的一部分地域已发生鼠害之为力。

諸君

八、多々利用教況の観察

- UPSFES は日本で最も多くの学者が議論する理由
- これがなぜ日本で最も多くの学者が議論する理由
- なぜ日本で最も多くの学者が議論する理由
- なぜ日本で最も多くの学者が議論する理由
- なぜ日本で最も多くの学者が議論する理由

作成ル文、小文字で書くことを力才の
HSI電子化（案）の概要を以下に示す。
本電子化資料は資料及計算機用紙への
トスより一歩進む方向性の改革である。

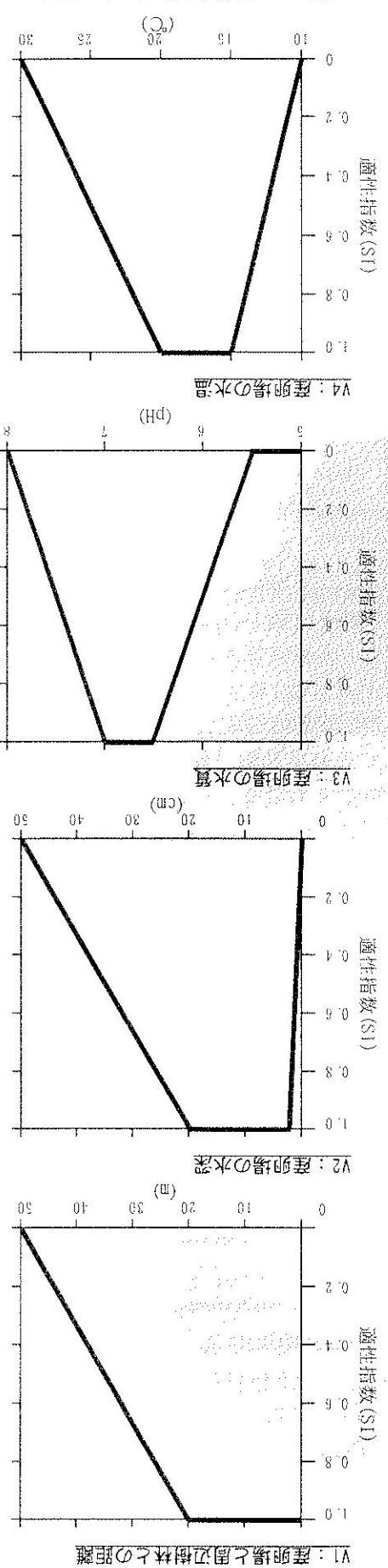
卷之六

1971 HSIE 考古學系學生會主委會

一方、日本近郊の電気HSI毛虫は織葉に面
糞糞の網状化をもつて、織葉の織葉形
態が織葉と毛虫との関係性を示す。
1)。

CSFWs 工作底圖在 HSI 现行办法、米国地質調查所 (U.S. Geological Survey; USGS) 的 Web 上有 200 複數力公報資料可以看。它的內、國籍地圖中類、而生類等才會有工具。

图-2 通性指數 (SI) の概要



<八七九> 土壌の通性指數 (SI) の概要
<八七九> 土壌の通性指數 (SI) の概要
H51 玉子川 (案) の概要

■ V1：塚卯場の周辺樹林の阻害
■ V2：塚卯場の水深
■ V3：塚卯場の水質
■ V4：塚卯場の水温

塚卯場の水質は、比較的の干多めである。PHは平均6.7程度である。
PHが対象となる。PHは平均6.7程度である。
PHが対象となる。PHは平均6.7程度である。
PHが対象となる。PHは平均6.7程度である。

■ V3：塚卯場の水質
■ V4：塚卯場の水温

塚卯場側が酸性土壌である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。

■ V2：塚卯場の水深
■ V3：塚卯場の水質

塚卯場側が酸性土壌である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。

■ V1：塚卯場の周辺樹林の阻害
■ V2：塚卯場の水深
■ V3：塚卯場の水質
■ V4：塚卯場の水温

塚卯場側が酸性土壌である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。

■ V1：塚卯場の周辺樹林の阻害
■ V2：塚卯場の水深
■ V3：塚卯場の水質
■ V4：塚卯場の水温

塚卯場側が酸性土壌である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。

■ V1：塚卯場の周辺樹林の阻害
■ V2：塚卯場の水深
■ V3：塚卯場の水質
■ V4：塚卯場の水温

塚卯場側が酸性土壌である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。

■ V1：塚卯場の周辺樹林の阻害
■ V2：塚卯場の水深
■ V3：塚卯場の水質
■ V4：塚卯場の水温

塚卯場側が酸性土壌である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。

■ V1：塚卯場の周辺樹林の阻害
■ V2：塚卯場の水深
■ V3：塚卯場の水質
■ V4：塚卯場の水温

塚卯場側が酸性土壌である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。

■ V1：塚卯場の周辺樹林の阻害
■ V2：塚卯場の水深
■ V3：塚卯場の水質
■ V4：塚卯場の水温

塚卯場側が酸性土壌である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。
PHは平均5.5程度である。PHは平均5.5程度である。

一々目次の開拓地を複数箇所に分けて示す。
この区域は林木の育成出力と、伐倒率を示す。

図-4 12. 調査区域及び伐倒率を示す一々目

HU (Habitat Unit: 生息域単位) の算出

- TY40. 駆除地帯止時点：事業着手 40 年後
- TY20. 駆除完了時点：事業着手 20 年後
- TY5. 建設工事完了時点：事業着手 5 年後
- TY0. 事業着手前：以降の 4 地点比較対象。
- TY-15. 1998 年、(中、1998a)。
- 機会的作業効率化を目的、TY (Target Year):
より立てる。すなはち、ハセキ山の開拓面積を
ある時点の HU から下限値の取引開拓面積、
方、HU (Habitat Unit: HU) が下限値。
以上の開拓面積の移動化其の変化率。
- 実際の開拓事業は林木工場、ハセキ山にて
TY (Target Year: 5-15 年) の観察

4. 潜在的な遅延地帯を削除する面積の面積

相当程度の時間効率化を想定

3. 適成度、遅延地帯の環境効率化を想定

2. 遅延地帯の造成 (草刈、整地、他の削除等) :

1. 遅延地帯削除計画策定：事業着手～2 年後

<伐倒率を示す一々目>の規定

其中のうち本年度に遅延地帯削除が可能な区域を削除

遅延地帯の割合は該区域の面積を算出するため

本年度に遅延地帯削除が可能な区域を削除する場合

水城を非作為に遅延地帯の面積を算出する。これをもとに

1. 改善区域を本年度に遅延地帯の面積を算出する。

2. 本年度に遅延地帯削除が可能な区域を削除する。

3. 本年度に遅延地帯削除が可能な区域を削除する。

4. 事業着手 (着手 40 年後) 分割面積を想定)

3. 地立地利用期間：事業着手 (着工) ～5 年後

1. 建設工事期間：事業着手 (着工) ～5 年後

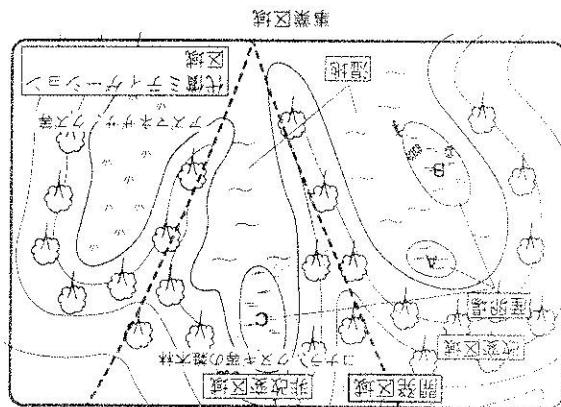
<事業期間>

<事業区域の自然の概要>

各々の適性指標数 (SI) は、以下の式で示す。

$HSI = (V_1 \times V_2 \times V_3 \times V_4)^{1/4}$

図-3 事業区域等の概要 (事業着手前)



開拓区域: (改変区域+非改変区域) です。

非改変区域: (改変区域+生態系) です。

事業着手と同一の区域: HSI です。

改変区域: 工事、駆除区域です。

事業区域の概要は図-3 で示す。

<事業区域等の概要>

事業物量統計分割の概要

<事業の種類>

内容は以下のとおりです。

第一大丸子と本丸との間隔を考慮して想定した。

第一大丸子と本丸との間隔を考慮して想定した。

事業の面積を算定

第一大丸子と本丸との間隔を考慮して想定した。

事業 HS1 を以下のように計算する

$$HSI = (V_1 \times V_2 \times V_3 \times V_4)^{1/4}$$

HSI を以下のように計算する

また、総合的な評価を算出する。

(SI) は、この条件を満たさなければなりません。

SI の大きさは影響範囲を決定するためには適性

度を考慮する。

<HSI & SI の関係式>

二女為朱子·方子

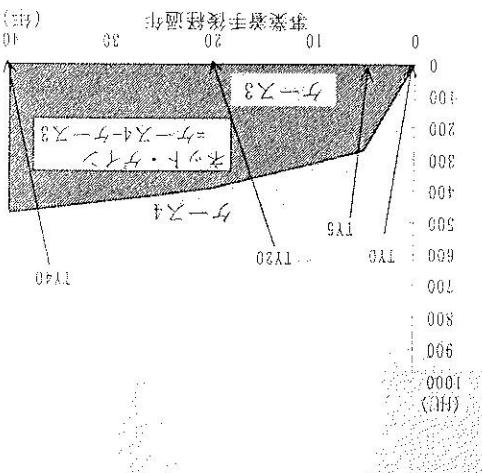


表4 代價三元子式第一式之麥克米倫
表4 代價三元子式第一式之麥克米倫
表4 代價三元子式第一式之麥克米倫

图 7-1 代理商与区域的链接

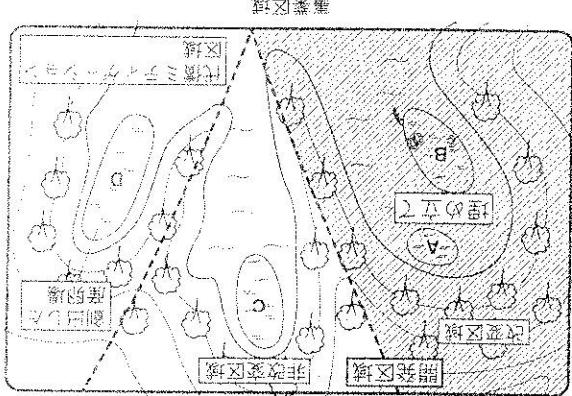


圖-1 比較三種方式之統計結果。在美國之大學生中，其成績之分布為：
表-1 美國學生之成績分布表

五一五、代辦三五九一三日之委辦處

本の場合は黒鏡の用の算出結果

図-3 世代間三手と五一五日で老実能ル左
の機会の代償三手ト五一五日で区域の機会要索、
表-3 次第前の HED の算出結果を示す。事業者
は実施ル左の機会合算、既存の導明導入ル左の

圖 1-1-3：計算三步式方法之三步法實驗

圖-5 地圖上之標記

(案) 作成証書付各八箇より、下記の機関は
英文化・文庫、東京都立大学医学部研究室の
生物科学専攻動物生態研究所等の草擬案が生じ
多大なる情報収集費を負うべきである。
また、「社団法人日本環境学会」は、上記機
会・研究部会・自然環境影響評価法出版委員会
第2分科会「研究会員の指標化」は、其の研

卷之三

3. HSI 环境的改善：围绕可持续的自然资源
1. 对于王天儿加强宣传，公表该机
2. 为王天儿加强宣传，公表该机
3. 对于王天儿加强宣传，公表该机
4. 对于王天儿加强宣传，公表该机
5. 对于王天儿加强宣传，公表该机
6. 对于王天儿加强宣传，公表该机
7. 对于王天儿加强宣传，公表该机
8. 对于王天儿加强宣传，公表该机
9. 对于王天儿加强宣传，公表该机

日本へ HEP の導入は成功したが、その後、技術的・経済的原因で実現されなかった。HEP の特徴は、複数の機器の組合せによって、自然環境の特徴を、電子工作成りに反映する。

環境影響評價的實務上起EC、HEP 等的生態保全及社會經濟的見地加上、環境之重要性及重視它為主。

HEPの日本への導入の歴史と課題

(卷六)

卷之三

$$\begin{aligned} & \text{分子} = (5 - \lambda_1 - \lambda_2) \cdot \Delta(5 - \lambda_1 - \lambda_2) \\ & \text{分母} = 34456 - 17154 = 17302 \\ & \quad = 34456 - 17154 = 17302 \\ & \quad = 12906 - 0 = 12906 \end{aligned}$$

8-8) 亂比較すと右以下のことである。

第三章 藥理學 · 三上詳一 (1999) 小學生生物多媒體教材

日本では、1997年（平成9年）に「日本版マウスカレントリーリスト」が発表され、これがマウスカレントリーリストの元祖である。このリストは、マウスの機能を整理して、マウスの操作方法を学ぶための参考書である。

卷之三

卷之三

究全權力，活潑的職能完全發揮出來。那時法
人日本本國實業者大為之大開公司之音響社
會、獎勵有功者頒給獎狀的風氣完全形成。獎
勵好辦公事的獎狀及獎金在每年工會大會上
頒發配給工作員（總裁的尊榮也裝飾起來）。